



## ＊『イーチーフー展』とは？

昨年秋、初めてのアトリエ展を開催したことがきっかけでした。その展の沢山の来場者の中に、稲毛さん、長橋さんがいて、どうやらアトリエのことを気に入ったようでした。その後、アトリエの玄関先に絵葉書店を開く準備の時に戸を新調しようという構想があり、二人が武蔵美に残って木工をしているということで、その構想を提案したところ、『いいっすよ』という返事があり、これはすごいと依頼することにしました。その時点ではどんなものを作っているのか全く知らなかったのですが、ここを気に入っているのだから大丈夫と思いました。

そして、年が明けた2月の末、気温一桁の中、それまでのアルミサッシの戸を外し、周りを掃き清め、新しい戸の受け入れ準備をしていました。ぶーんと颯爽とあれこれと積み込んで、二人組はやって来ました。出来上がったばかりの白木も美しく、おお！さすがと感心しつつ、先ずは外枠からと降ろした木枠を入れようとしたところ、入らない！あれーどうしたんだろうか。当然なことですが、作った側はもっと直ぐに気づいたようで、車の脇でもじもじとしています。どうやら寸法を間違えたようでした。まあ、失敗は誰しもあるよと慰めましたが、開店日の3月13日は迫っています。頑張りますという一言を残して帰ってゆきましたが、一抹の不安がよぎりました。その後、二人が睡眠不足になりながら修正し、無事素敵な戸が取まった時は皆でほっとしたものでした。扉は古い建物には上等な感じで、和食の小料理屋のようでした。雨に濡れてもある程度耐性があるということで、総ヒノキにし、仕上げはシンプルに蜜蝋のみで、経年変化を楽しもうということにしたからでもありました。そして、何か所か鉄で作った面白い造作が戸にあるけれど、これは誰が？と聞くと、藤森さんの名前が出てきました。同時に作った商品台の足の部分も彼の作でした。

お店は無事開店し、立派な戸のお陰で順調な滑り出し。感謝の気持ちで制作の3人組で打ち上げをアトリエですることになりました。沢山食べ物を作って出すとあつという間に無くなります。20代半ばということもありとても元気です。どんどん飲み、食べ、話しながら、ふと、ここで何かする？と聞いたところ、『いいっすね』という返事が。よし、今年の夏休み明けに何かこのアトリエで考えようということになりました。その時点でもそれぞれがどんな作品を作っているか把握していたのは長橋さんのみでした。こちら側の希望はぶらりお散歩の人が手に取るような物を作って欲しいということでした。そして、展に名前を付けようということになり、相談の結果、名前の頭を取って『イーチーフー展』と決めました。

三人が持ち込んだ作品は個々の感性を反映して興味深く、それらがここを訪れる人とどんな対話するかとても楽しみです。

## ◎『秋の入り口展』とは？

きっかけは、パートナーの平岩夏野の展をアトリエでしようということでした。普段のギャラリーとは何か変化できるのではないかという提案でした。あれこれと相談しつつ、計画を立てているなかで、服があつて、絵があつて、他にも何かあるとよいねという話のなかで、びかっつとひらめいたのは、一柳京子さんの器でした。吉祥寺にあるroundaboutにて出会って以来、『器』に目覚めました。感性と造形力、見る度に『自由』というものを感じさせる作品の数々。いつしか、戸棚の中は一柳さんの器で一杯になりました。そういった一ファンである申し出を受けてくださり、その時のお誘いの文言にあった『秋の入り口』という言葉が展の名前になりました。その後、それぞれのアトリエで打ち合わせをしつつ、食事をし、色々とお話できたのがよかったです。とてもよい刺激を受けました。私感ですが、平岩と一柳さんには共通な魂を感じます。芯のある自由な魂。そこに接することに幸せを感じます。是非ご覧ください。一柳さんの在アトリエ日は17、20日です。

自身の絵はこの春辺りから色彩の絵を描き始めました。色面の重なり、線、記憶の中の風景、音楽が生み出した絵。近作を中心に展示します。ご覧ください。



ワイワイまつりがあります！

9月11日土曜日12時より17時まで、ご近所の国立北区商店会のお祭りがあります。おみこし、どじょうすくい、和太鼓、沢山の屋台、ライブ演奏、輪投げなどなど。食べて楽し、見て楽しです。是非ご近所の方やご家族でお越しください。同じ日に『イーチーフー展』も当アトリエにて開催中です。こちらもどうぞ。



アトリエでの展覧会期間中も『フジカワエハガキ』は開店しています。新作の孔版印刷の絵葉書あります。お手に取ってご覧ください。